

2025 年度 学校法人 三幸学園 仙台ウェディング＆ブライダル専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 山内 朝子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 田村 惇也

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ウェディング・ブライダル分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ウェディング・ブライダル分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできる NO.1 のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

- ・退学率低減(目標 5.2%)⇒結果 6.5%
- ・インターンシップ(任意選択)参加率向上(ウェディングプランナー科約 50%以上)
- ・学生が「入学してよかった」と思える学校作りとして、多様な価値観を持つ学生に対応するため、学生一人ひとりの個性や状況に応じた面談・指導を実施した。また教室に入ることが難しい学生に対して、同時双方向で授業を受けられる環境も整備し、段階的にクラスで授業を受けられるよう支援を行った。
- ・自ら考え行動できる学生を育成するために、学年・学期ごとに育成ステップを決めた。全体会議で全講師に共有し、日ごろの授業や学校行事において、目標達成を意識した指導を行い、学生の主体的な成長につなげた。

② 学校関係者評価委員会コメント

- ・インターンシップに参加し、実際の現場を経験しているかどうかで学生の意識や卒業後の就職定着に差が出ると感じる。入学後のミスマッチや早期退職を防ぐためにも、多くの学生がインターンシップで現場経験ができることよい。(梅宮委員)
- ・寮などの生活面でも同様に、日常の関わりやイベントを通して主体性やコミュニケーション力を育てていくことが大切だと感じる。(田村委員)
- ・段階的な育成ステップを設定し、全講師で共有して指導をしている点は非常に効果的だと感じる。(小島委員)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・保護者への周知については、入学前保護者説明会を実施し、理解をいただいているが、入学後の保護者連携については課題である

② 今後の改善方策

・保護者連絡アプリを導入し、学校の様子や行事案内を発信していく

③ 特記事項

特になし

③ 学校関係者評価委員会コメント

・本校では今年から保護者連絡アプリを導入し、入学後の保護者連携、保護者理解を深めていきたいと考えている。高校分野では保護者連絡はどのように行っているのか。（山内副校長）

・高校でも保護者連絡アプリの活用をしているが、閲覧数の低さが課題である。ツールを導入しただけでは保護者周知が徹底されず、十分に活用できていない。アプリの存在を周知し、効果的に活用していくことが今後の課題である。専門学校も参考になるのではないか。（小島委員）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・学園全体で統一した内容が発信・整理されているため、特に問題はなし
- ・業務の ICT 化や AI の活用により業務効率が改善されているが、教員の IT リテラシーに差があり、活用度の差もみられる。

② 今後の改善方策

- ・継続して適切な運営をしていく
- ・有効な活用方法があれば、教員間で共有していく

③ 特記事項

特になし

③ 学校関係者評価委員会コメント

- ・AI や ICT 化は学生指導にも関わってくるため、専門学校でも一定水準の活用できる仕組みが必要。（小島委員）
- ・日常生活の中で活用頻度を増やし、職員同士で教え合う機会があるとよいのではないか。（田村委員）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・2026 年度より新カリキュラム運用になるため、教職員間の教育内容理解の統一が必要
- ・2026 年度広報より「ホテルエアトラベル科」が新設されるため、人材育成像や既存学科との違いを教員一人一人が正しく理解する体制が必要
- ・教員研修の機会はあるが、任意研修の場合は、時間のある教員のみが参加している状況である

② 今後の改善方策

- ・職員会議などで新カリキュラム及び新設学科の勉強会を実施する
- ・自己研鑽のために、研修に参加する意識づけ、環境・雰囲気作りをしていく

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・学園発信で研修の案内があるが、自由参加だと参加率が低いのが現状である。企業様ではどのような研修をしていて、参加形態はどのようにしているのか。(山内副校長)
- ・スカイパレスアソシエイツでは、一般社員向けにスキルアップ研修を必須で行っている。その他に役職(チーフ・支配人など)に応じた段階別研修のほか、全社員対象のホスピタリティ認定講座を実施しており、単なるマナー講習ではなく、ホスピタリティの本質を学ぶ内容となっている。専門学校へご紹介することも可能。(梅宮委員)
- ・研修のメリットは、社内に「共通言語」が生まれること。指導や注意を行う際に、個人の感覚ではなく、研修で学んだ明確な基準(こういうことは良くないなど)に基づいて言葉をかけられるようになるため、管理側の負担が軽減される。(梅宮委員)
- ・研修を任意参加にすると参加率が低くなるため、共立メンテナンスでは原則必須とし、対面で行っている。任意の研修としてオンライン視聴ができるが、業務の合間などで行われることも多く、参加率は低い。外部講師に依頼をすることが効果的である。(田村委員)

(4)学修成果

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

- ・内定後辞退が数名おり、納得した内定が課題
- ・8 個の検定・資格の合格率が昨対マイナス
- ・退学率は昨対よりマイナス 1%(5 名減)だが、2 年生の退学者が 1.5%(3 名)増加した

② 今後の改善方策

- ・学生の業界理解・企業研究が浅くミスマッチが起きている可能性がある。また内定取得後のフォロー体制を見直し、学生の社会人生活に対しての不安を取り除いていく。
- ・実技系検定については。授業への出席率向上を図り、基礎力の定着を図る。また、担任とも連携し、資格取得のメリットや将来の進路・就職にどのように役立つかを学生に具体的に伝えることで、検定取得への意力向上につなげていく。
- ・卒業生講話を実施し、社会人になることへの期待・ワクワク感を持たせる仕組みづくりを行う。
- ・2 年生の退学増については、進級後の早期面談を検討する。また、目標喪失にならないような声かけを行っていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・スカイパレスアソシエイツでは直前の内定辞退はそれほど多くなく、大きな問題にはなっていない。内定後辞退を防ぐために、内定者懇談会や社員との食事会を計画しているが、企業側にとって一定の負担となっているのも事実である。（梅宮委員）

・インターンシップの経験有無によっても差がある。入社後の研修では、仕事の中で大変なことがあるということを伝えている。大変なのは当然であって、自分だけができないと思いたまわないようにというメッセージを伝えている。（梅宮委員）

・離職理由としては、お客様からのご指摘や上司への苦手意識などがある。また、先輩のサポート業務はできても、自分が責任を持って業務を担うことに対して不安や怖さを感じるケースが多いように見受けられる。そのため、専門学校では卒業後の支援として誰とでもコミュニケーションが築けるようご指導いただきたい。（梅宮委員）

・共立メンテナンスでは、寮配属よりホテル配属の方が内定後辞退や離職が多い傾向にある。卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の参考にしていきたい。（田村委員）

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

・卒業生に対する継続的なフォロー体制が十分ではなく、卒業後の状況把握や再就職支援などは課題である。

② 今後の改善方策

・卒業生 LINE などは取得しているが、うまく活用がされていないため、定期的に情報発信をしていくなど検討する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・高校では卒業生に対するフォロー体制として何か行っているのか。（山内副校長）

・高校卒業後に、進路変更や進学先を退学したことを報告に来る生徒は少ない。高校では毎年同窓会を開催しており、参加率は高くはないものの、話を聞く機会を設けている。その中で何かあれば学校に相談に来るように伝えているが、実際には良い報告をしてくる生徒が多く、悪い報告はあまり来ない。一方で、悩みがある時点で相談にくる生徒も一定数いる。卒業生サポートはまだまだ手探りであるため、お互い良い案があれば共有し合っていきたい。

（小島委員）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・防災・安全面のマニュアル配布のみに留まっており、実際に訓練をするところまでできていなかった

② 今後の改善方策

・教職員の全体会議で、避難訓練の実施を検討していく

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特に問題がないので、継続して適切な教育環境を整備していくことを期待している(田村委員)

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・ブライダル業界に興味をもつ高校生はいるが、「自分にはハードルが高いという先入観」や「憧れ止まり」になっている現状がある。
- ・美容師免許人気が高まっており、適切な募集を行う

② 今後の改善方策

- ・オープンキャンパスに参加し「自分にもできた」と実感が沸く体験を準備する。また同じような気持ちで不安を抱えながら入学した在校生とトークすることで「自分にもできるかもしれない」という気持ちになってもらう。
- ・オープンキャンパスにおいて、業界の魅力・イメージがつく説明、体験メニューの実施が必要である
- ・美容師免許取得希望者の増加に対応するため、募集人数の適正管理を行う。授業・実習は姉妹校の美容師要諦校で実施するため、国家試験合格に向けて姉妹校と連携した支援体制を構築していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・自分から積極的に動ける生徒は問題ないが、試しに行ってみようという軽い気持ちで参加した生徒の中には、自分の本心とは違う流れで、オープンキャンパスの予約などが進んでしまうこともある。その結果、オープンキャンパスへ行きたくないと感じる生徒もいる。そのような場合は、進学先としてその学校が合っていない可能性もあると考えられるので、高校としては生徒の意向に沿った対応をお願いしたい。（小島委員）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特に大きな問題はない

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・個人情報の取り扱いについては、セキュリティ面もだが日常的な取り扱いの慎重さが大切なので、引き続き適正に努めていただきたい。（田村委員）

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・ブライダル協議会と連携した大型商業施設でのドレスショーの実施や、仙台市内の小中学生を対象に実施している職業体験(楽学プロジェクト)に参加し、ブライダル業界の魅力発信に取り組んだ。

② 今後の改善方策

- ・引き続き連携を継続していく
- ・継続的な情報発信や、将来的な業界志望へ結びつけるための施策強化が課題である

③ 特記事項

③ 学校関係者評価委員会コメント

・店舗によって、職場見学や職業体験等を個別で受け入れを行っているケースはあるが、会社を通しての依頼は少ない。なお、式場の中でマルシェを開催するなどの取り組みは行っている。（梅宮委員）

・地域で社会貢献・地域貢献を実施するのは会社の 1 つの役目であると考えてるので継続して実施していただきたい。寮ではボランティア活動を実施しており、取り組みを営業面でのアピールにもつなげている。活動を通じて寮内のコミュニケーションにもつながっているほか、イベントを実施することには退寮防止の意図もある。（田村委員）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・退学率の減少傾向や、就職させて終わりではなく、入社後の定着までを見据えたフォロー体制の構築を検討している点は学校として非常に素晴らしいことだと思う。今後も更なる学校運営の向上を目指していただきたい。（田村委員）

・退学率の改善や就職支援、情報発信、地域連携等に関する取り組みについて意見をいただき、今後の課題解決や学校運営の改善に向けた貴重な助言を得ることができた。委員からの意見を踏まえ、引き続き教育の質向上と学校運営の改善に努めていく。（山内副校長）